

2024年度 沖縄大学
学校推薦型選抜

「福祉文化学科社会福祉専攻 小論文」
問題用紙

2023年11月25日(土)
9:00~10:00

2024 年度 沖縄大学 福祉文化学科社会福祉専攻 学校推薦型選抜 小論文試験

2022 年度の沖縄県内小中学校の不登校児童生徒数、いじめ認知数や暴力行為発生数はどれも全国平均を上回る。その他、大人の代わりに家族の世話や家事を担うヤングケアラーの割合も多いことが実態調査で分かった。更に貧困問題、コロナ禍での自粛の影響等、複雑な要因が絡み合い、児童生徒の学校生活は「生きづらさ」を増している。

児童生徒が安心して通える魅力ある教育環境の実現に向け、家庭、学校、地域、行政はどのような取り組みを行うことができるのか、また、個人として何ができるかを以下の記事の内容も踏まえてあなたの考えを述べなさい。(600～800 字以内で書いてください。句読点は文字数に含みます。)

【社説】不登校過去最多 学びの保障 社会全体で（沖縄タイムス 2023 年 10 月 8 日）

2022 年度の県内小中学校の不登校児童生徒が 5762 人と前年度から 1327 人増え、過去最多を更新した。全国的に増加が続くが、県内は小中高校とも千人当たりの数が全国平均を上回る。

文部科学省調査によると、小中学生の不登校は全国で 21 年度に初めて 20 万人を超え、22 年度は 29 万人に上った。この 2 年間は前年度からの伸び率が 2 割を超え、合わせて 10 万人増という状況にある。

要因として挙げられるのは「無気力、不安」51.8%。「生活リズムの乱れ、あそび、非行」11.4%、「友人関係を巡る問題」9.2%など。無理に学校に行く必要はないという考え方が浸透したのに加えコロナ禍による生活環境の変化も影響している。

いま、社会はかつての日常を取り戻しつつある。だが子どもの心はそう簡単ではない。一度関係が断たれた友人との付き合い方や教師との関係、学校生活の楽しさを取り戻せるよう、大人が日々、丁寧に向き合う必要がある。

全国調査では、不登校児童生徒のうち、相談や指導を受けていない子が 38.2%と約 4 割に上る。

家庭や学校、地域と連携しながら子どもを支えるスクールソーシャルワーカーの配置をさらに進めたい。子ども自身が声を上げにくい問題への関心を高め、発する SOS にいち早く手を差し伸べることが不可欠だ。

■ ■

県内では貧困問題なども絡み、要因はさらに複雑だ。

昨年、県が行った初の実態調査で、大人に代わり家族の世話や家事を担うヤングケアラーと思われる小 5～高 3 が約 7450 人いることが分かった。単純比較は難しいものの、父母を世話する子の割合は全国の約 2 倍の多さだ。

無気力だけではなく、家の事情で学校に行きたくても行けない子がいることも忘れてはならない。学びの保障を社会全体で考える必要がある。

さらに気になるのは、いじめや暴力の増加だ。

県内のいじめ認知数は前年度から 2588 件増の 1 万 4139 件。暴力行為発生数も 927 件増の 2983 件で、千人当たりでどちらも全国平均を上回る。いじめの「重大事態」は全国で 4 番目、暴力行為は 5 番目に高かった。

これほどの数字の背景に、どんな理由や問題があるのか。調査結果をしっかりと分析して解決につなげなければならない。

■ ■

県内で 21 年度に精神疾患を理由に休職した教員は 199 人で、全教員に占める割合は 16 年連続で全国一高かった。

学校は、勉強だけでなく人間関係や社会性を育てる場所でもある。多忙を極める現場だけに任せず、学校外の相談窓口の設置や学習支援など、自治体や民間も一緒に子どもを見守る工夫も大切だ。

公民館で大学生が勉強を教えたり、オンラインで学習支援を行う市町村もある。地域で学びを支え、伸び伸びと生きられる環境づくりがますます重要となっている。